

# 果 樹 の 生 育 概 況

令和7年4月1日現在  
福島県農業総合センター果樹研究所

## 1 気象概況

3月の平均気温は6.8℃で、平年より1.7℃高かった。また、この期間の降水量は51.0mmで平年比70%、日照時間は212.7hrで平年比104%であった。

表1 半旬別気象表（果樹研究所）

月	半旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
3	1	4.4	3.6	+0.8	9.9	8.5	+1.4	-0.8	-0.8	+0.0	25.0	10.0	250.0	29.5	31.9	92.5
	2	3.9	3.5	+0.4	8.7	8.5	+0.2	-0.3	-0.9	+0.6	1.0	11.5	8.7	39.5	33.6	117.6
	3	8.1	4.7	+3.4	14.1	10.2	+3.9	3.1	-0.3	+3.4	0.0	11.8	0.0	33.7	31.1	108.4
	4	4.1	5.6	-1.5	8.5	11.2	-2.7	0.7	0.7	+0.0	25.0	12.2	204.9	30.3	34.8	87.1
	5	11.1	6.0	+5.1	18.6	11.5	+7.1	2.7	1.2	+1.5	0.0	14.3	0.0	44.0	31.5	139.7
	6	8.7	6.7	+2.0	15.5	12.0	+3.5	3.2	1.6	+1.6	0.0	13.4	0.0	35.7	41.1	86.9
平均・合計		6.8	5.1	+1.7	12.6	10.4	+2.2	1.5	0.3	+1.2	51.0	73.2	69.7	212.7	204.0	104.3

## 2 発芽状況

発芽の状況について、モモ「あかつき」は3月24日で平年並、ナシ「幸水」は3月28日で平年より4日早く、リンゴ「ふじ」の発芽は3月26日で平年より1日早かった（表2）。

表2 各樹種（品種）の発芽・展葉状況（観測地点：果樹研究所、3月31日現在）

	発芽観測日			展葉観測日		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
あかつき	3月24日	3月24日	3月25日	—	—	—
ゆうぞら	3月24日	3月25日	3月28日	—	—	—
幸水	3月28日	4月1日	3月31日	未	4月14日	4月9日
豊水	3月26日	3月30日	3月29日	未	4月10日	4月6日
つがる	3月25日	3月26日	3月30日	未	4月8日	4月6日
ふじ	3月26日	3月27日	3月28日	未	4月7日	4月4日

注) 平年は1991～2020年の平均値。

## 3 発育予測

仙台管区气象台が3月27日に発表した1ヶ月予報によると、向こう1ヶ月の気温は、高い見込みとなっている。

今後の気温経過について気象予報を用いた場合、各樹種の開花はモモ「あかつき」が4月9日頃で平年より4日早く、ナシ「幸水」が4月16日頃で平年より4日早く、リンゴ「ふじ」が4月23日頃で平年より3日早いと予測される（表3）。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右され、今後の気温の推移により、大きく変動する場合がありますので注意する。

表3 開花予測日 [発育速度 (DVR) モデルによる発育予測：4月1日現在]

	開花日		今後の気温経過			
	昨年	平年	気象予報	平年並	2℃高い	2℃低い
あかつき	4月6日	4月13日	4月9日	4月11日	4月9日	4月15日
幸水	4月14日	4月20日	4月16日	4月18日	4月15日	4月22日
ふじ	4月15日	4月26日	4月23日	4月25日	4月21日	4月30日

注1) 開花日の平年は1991～2020年の平均値。

注2) 今後の気温経過の気象予報とは、気象庁が発表している週間予報、2週間気温予報及び1ヶ月予報気温（3～4週目の平均気温）を反映し、以降の気温は平年並に経過した場合の予測値。

注3) 発育予測は2～3日の誤差を生じる場合があることに留意する。

#### 4 栽培上の留意点

##### (1) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性が最も弱くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底する。

(各樹種の生育ステージ別安全限界温度は、下記の技術資料を参照)

「作物別凍霜害及びひょう害技術対策（令和7年3月3日）」

URL <https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/675550.pdf>

事前対策としては、防霜資材の準備を徹底するとともに、地温の上昇を図るため、下草は5cm程度にこまめに刈り込む。また、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保する（乾燥条件は気温の低下が著しいため）。

なお、降霜被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保を図る。

#### 5 病虫害防除上の留意点

##### (1) 病害

###### ア リンゴ腐らん病

伝染源となる枝腐らん、胴腐らんの発病部位は確実に削り取るかせん除し、トップジンMペーストの原液を塗布する。なお、伐採した被害枝幹や削り取った病患部は園内に放置せず適切に処分する。薬剤防除は展葉初期にベフラン液剤25 1,000倍を使用する。

###### イ リンゴ黒星病

展葉初期にジマンダイセン水和剤600倍またはベフラン液剤25 1,000倍を使用し、初期の防除を徹底する。

###### ウ モモせん孔細菌病

発生初期の密度抑制が重要であるため、定期的にはほ場を巡回し、伝染源である春型枝病斑の早期発見とせん除を徹底する。春型枝病斑せん除の際は、病斑が発生した一年枝を可能な限り基部まで切り戻す（図1）。

また、開花直前の防除が遅れないように注意し、薬剤は4-12式ボルドー液（モモのみ）、ICボルドー412 30倍、コサイド3000 1,000倍またはムッシュボルドーDF 500倍のいずれかの薬剤を散布し、春型枝病斑からの感染防止を図る。なお、開花後の散布は葉に薬害を生じるので、防除時期を逸することのないように十分注意する。



図1 春型枝病斑のせん除位置

エ ナシ黒星病

初期の感染を防ぐため、発芽1週間後を目安にオキシラン水和剤 500 倍を散布する。また、開花直前に効果の高いDMI剤（県病害虫防除指針参照）を十分量散布する。開花期間はいずれの品種も黒星病に対する感受性が高いため、降雨前防除を徹底する。なお、果樹研究所における黒星病の子のう胞子の初飛散は確認されていない。

オ ブドウ晩腐病

前年の房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部などを丁寧に除去し、越冬病原菌密度の低下を図る。また、発芽前にデランフロアブル 200 倍、パスポート顆粒水和剤 250 倍、ベンレート水和剤 500 倍のいずれかを散布する。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

モモハモグリガ越冬世代成虫の果樹研究所に設置しているフェロモントラップにおける初誘殺は3月6半旬に確認した。モモハモグリガ越冬世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が平年より2℃高く推移した場合、4月3半旬頃と予想され、第1世代幼虫の防除適期は4月4半旬頃と推定される(表4)。また、落花10日後頃を目安に追加防除を実施する。

イ ハマキムシ類

リンゴモンハマキ及びリンゴコカクモンハマキは幼虫で越冬し、展葉以降に新梢を加害する。昨年、本種の発生が多かった園や、花や新葉に食害が見られる園では、リンゴでは展葉初期、ナシでは発芽1週間後に本種に登録のある殺虫剤を使用する。

ウ リンゴハダニ

リンゴハダニ越冬卵のふ化盛期は、今後の気温が平年より2℃高く推移した場合、4月4半旬頃と予想される(表4)。越冬卵密度の高い園では、落花以降の発生密度に注意し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達したら殺ダニ剤を使用する。

表4 果樹研究所における防除時期の推定(令和7年3月31日現在)

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴハダニ
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬卵 ふ化盛期
2℃高い	4月14日	4月20日	4月17日
平年並	4月18日	4月26日	4月23日
2℃低い	4月22日	5月1日	4月28日

起算日：3月1日(演算方法は三角法)